

特集Ⅱ：現代の学校と教師の仕事  
本学卒業生による座談会  
「教師の仕事：苦しみと喜び」

泉水佐代子（鷺宮町立砂原小学校）・名取宏修（越谷市立桜井小学校）  
稲橋光男（野田市立関宿中学校）・小宮山郁子（狛江市教育委員会指導室長）  
司会：米津光治（文教大学教育学部）

The Current Trend of the School and the Teacher's Work in Japan ;  
A Round Table Talk by Alumni and Alumnae  
A Teacher's Work ; Pain and Joy

SENSUI SAYOKO

(Sunahara Elementary School of Washimiya-Machi)

NATORI HIRONOBU

(Sakurai Elementary School of Koshigaya-City)

INAHASHI MITSUO

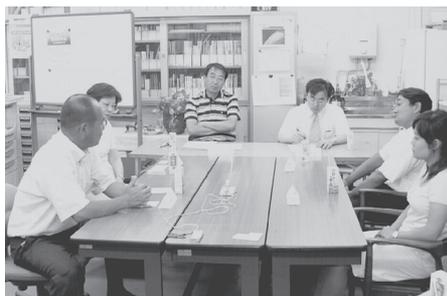
(Sekiyado Juhir High School of Noda-City)

KOMIYAMA IKUKO

(Head of Supervisory Section of  
Educational Board of Komae-City)

YONEZU MITSUHARU

(Faculty of Education, Bunkyo University)



司会 今日お集まりの方は、年代の異なる現職の教員の方々です。年代が違くと、学校での立場や仕事の中身にも違いがあると思いますが、学校というところは、どうしても外側の人から見れば、先生は勉強を教えている人、というくくりになってしまうのではないかと思います。教育改革の中で、学校での先生の仕事も、これまでの学校とは、変わってきているのではないかと思います。今日は、「教師の仕事―苦しみと喜び―」ということで、教師の仕事の大変さのことも含めて話しをお聞きしていきます。まず、今、現場でこんなところが大変だ、というところから話をして

いただこうと思います。最初に、直接子どもと関わっている部分で、こういうことは大変かなということを一言二言話してください。  
泉水 私は臨時採用を含めて3年目になるのですが、まだ全てのことが初めてなので、大変な事というのはそれほど感じてはいません。ただ、自己中心的な子どもが多いということが気になっています。現在、1年生を担当しているのですが、一人でしか遊べない、自分一人だけで友達と関わらなくていいという、自分だけの世界に閉じ込めている子どもたちがいることに、私はとても疑問を持ち、どうしてあげればいいのかと悩んでいます。



**名取** 私は教員になって13年目で、今の学校は3校目ですが、子ども自身のことですごく悩むということは、今まで特にはなかったです。5年生と6年生しか担任し

たことがないし、どちらかという、子どもには恵まれてきた方かなと思います。ただ、どの学校でも、子どもが荒れた時期、荒れたクラスはありまして、最初に勤めた学校では、大変な状態もありました。

**司会** 今日は、中学校から稲橋先生お一人なのですが、どうでしょうか。

**稲橋** 生徒指導主任を15、6年やってきています。学校によって違いはあると思いますが、とにかく、教室には入らない、暴れて悪態をついて、という生徒がたくさんいましたので、そういう子どもたちへの対応がありました。そして、それを見ている他の生徒たちが、あの子たちがあんなことをやっているのに何で私たちがこのくらいで注意されなければならないのか、というような感じ方をする生徒がいて、それをどう指導していくかということが大変でした。中学生になると、行動範囲がずっと広がるので、小学校の指導の大変さというものとはずっと違ってきます。最近、「子どもたちの気持ちをよくわかる」ということが大事だと言われますが、実際に目の前でガラスを割った生徒に対して、「何かあったの？」と気持ちを汲み取っていこうと声を掛ける自分の関わり方が、自分自身の中で納得いかない部分があるのです。目の前でガンと3万円ぐらいもするガラスを割って、ゴミ箱をバーンと蹴っ飛ばして、本当は厳しく指導したいところだけでも、「あの子には何かあるのだから話を聞いてあげて」というような流れが、今の教育の中にある感じがします。そこに、生徒指導の苦しさみたいなものがあるのかなと思います。

**司会** 小宮山先生は、現在は教育委員会指導

室長としてお仕事されていますが、その前には、校長の職に居られたので、ここでは唯一の校長経験者です。校長という立場だと、子どもと直接関わる部分ではなかなか無いかもしれませんが、先生から見た今の現場の先生方の大変さをお話いただけますか。

**小宮山** 校長という立場で困った、大変だ、という経験は、子どもたちと担任とが上手く心が通い合わなくなって、学級が荒れ始めた場面が2回、つまり2学級ほどあったことです。そういった時、先生が一生懸命に努力をするのだけれど、最初に掛け違ったボタンがなかなか修復できないのです。もうその先生のことを信頼できない、嫌だという風になってきた時、子どもたちは、一つ一つに信頼が置けずに、学習が成り立たなくなるのです。そういう状況を目の当たりにした時には、校長として、次はどうしようか、どうやって事に当たろうかと考えました。やはり子どもたちが安定していくまでには、大勢の力を借りながら、長い時間が掛かりました。それから、先ほどお話に出た、自己中心的な子どもが見られる、ということですが、自分の欲求が満たされない又何もかも嫌だという極端に走る子どもが、小学生の低学年の中にも見られるというように感じています。

**司会** 教師という職業を目指す時には、やはりこれまでに出逢った恩師の影響を受けたりして、実際に教師になった時には、理想や情熱を持って夢の実現のために努力されているのだと思います。また、教師の仕事というのはだいたいこんな仕事だなと、ある程度教育実習でのイメージを持って、現場に出たかと思うのですが、そのズレみたいなものはありますか。

**泉水** 初めて現場に入った時、去年までの学生とのズレをととても感じました。学生時代は、大学で教えてくださる先生の言っていることが全部当然だと思ったのです。やはり授業は、ジャージよりも洋服の方がいい。でも、実際

現場に入るとすごくズレがありました。民間で働いている友達には、指導係とかブラザー・シスター制などの指導制度があると聞きましたが、私が初めて臨時採用として入った時には、教えてくれる方がいませんでした。その時に初めて、私はもう、直接子どもや保護者の方を相手にする職業になったのだということを感じました。ダイレクトに何でもクレームが来ますから。その時に、ちょっと恥ずかしいのですけれども、去年までは学生でいい身分だったなと感じました。「そこまで言われたことないのに」ということが多かったですね。歳のこととか、女だから、ということをよく言われたので、去年までの違いにすごく悩む時期はありました。

**名取** ズレというのではないのかもしれないですけど、私も新卒で入った時に、教えてくれない、という言い方はおかしいのかもしれないですけど、それを感じたことがありました。とりあえず子どもの前で紹介されます。何年何組の何々先生で、新しい先生なんだよ、と。そう言われて、子どもの前に立って、その後には当然誰かが一緒にやってくれて、どうやって子どもに教えるかなど、一つ一つ教えてくれると思っていたのです。でも、「はい。じゃ教室行って。」と言われ、でも教室行って何すればいいのかわからない。新人なんだからと思っても、子どもはそう思っていない。先生なんだからここまではできなければいけないと、子どもが要求してくる。そういうので最初の一年は大変でした。先生なんだから知っているでしょ、というのは、子どもだけじゃなく親にもあって、すごくそういうのに悩んだ時期もありました。忘れてしまいましたけど（笑）。

**司会** 今度は経験の長いお二人にお伺いします。我々が教育実習の挨拶などで学校に行くと、最近、「現場は忙しい」ということをよく耳にするのですが、最近はやはり忙しくなっているのでしょうか？

**稲橋** そうですね。それぞれの部署とか役割とかによっても若干違うところがあるのかもかもしれませんが、やはり要求されることが、以前よりも多くなっていることは確かですね。いろいろなことが要求されています。議会対策の為の報告だとか、危機管理など、当たり前のことなのですが、何かあった時の言い訳の為に、きちっとしておかなければならないという動きみたいなものが、すごく多いように思います。

**司会** 学校に対する要求というのは、いわゆる教育委員会、行政サイドからの要求ということですか？

**稲橋** 行政ももちろんですけども、そこにいる周りの人の目というか、親がこういうことを言ってくる前に、やっておかなければいけないみたいな感じが多いかなと思います。具体的に言うと、この前、「置き勉」の調査というがあったのです。机の中に物をしまっただけ帰る「置き勉」がどのくらいあるかというのを、議会で質問するということになったのです。私が「置いていっていい教科書」というのを教務主任として学校で出したんですよ。出して良いかどうかわかりませんが（笑）。子どもたちは通学のバックにたくさんの荷物を入れて、さらに部活動の道具、グローブなんかも入れて、というようになるので、道徳や保健体育の実技の教科書、進路の手引きというようなものはいちいち持って帰らず、学校に置いて行って良いんじゃないかということで。その調査は、「置き勉」がどれだけあるか、要するに、家に帰って勉強しないのは学校が教科書を置いていっていい、という指導をしているということをお願いしたいんでしょうけれど。何百人という生徒の何が何冊置いてあるということ、全部自分で教室を回って調べて報告したんです。きちんと全部調べて報告はしましたけれども、そんなこと無駄だなと思いました。

**司会** 小宮山先生は校長として、回答する立

場でもあったでしょうし、今は教育委員会という立場で調査をすることもありますが、そういうものは多くなっているのでしょうか。



**小宮山** やはり多いと思います。「〇〇教育」といったら、全部学校へ持ってくるということなのです。私の校長の時、食に関わる教育の年間指導計画を全部立てなさいというようなことがありました。その前には、人権教育の指導計画、環境教育の指導計画など、様々なものを学校では作っていました。そういうものを学校で計画を立てることは良いことなのですが、私が担任をしていた頃よりは、どれもこれも同じウェイトでかかってきてしまって、オールマイティでやるべきというのがずいぶん多くなったと思います。食に関わる教育に関しては、「これは全部学校なのか？」という気持ちがしながらも、自分の学校でどうやっていくのかの計画を作っていました。やはり先生方が文章などで作っていくところは増えています。あと、書類に関して言えば、東京都は人事考課が出来て、良いことではあるのですが、自己申告書一つ作るにしても、申告書を作ってから、それぞれの先生方の面接をして、またキャリアプランも作るという流れがあります。システム的には良いことなのですが、書類の量は確かに増えていると思います。

**司会** 様々な教育課題がありますが、やはり「学力向上」がどの学校でも、一番重要視されているのではないかと思います。子どもの学力向上の取り組みで、大変な思いをされていることはありませんか？

**泉水** 今回、本当に学校が違うと子どもたちの持っている能力も違うということを、目の当たりにしました。保護者の方が無関心というのが、やはり一番大きいと思います。こちらとしては、これだけ宿題を出したら子ども

たちが応えてくれるという関係が成り立つと、教師としてもやりがいがあると思うのですが、保護者の方が、教員の“あさがし”になってしまうことがあるのです。先生はうちの子のトメハネが付いていないのに、丸をつけた。先生これはどうなんだ、というようなことがありました。最近私は、矛先が違うのではないかと思います。私はただ、子どもに学力を付けたい、勉強する習慣をつけてあげたい。だから、宿題という形で出しているのに、お家の方はそういう捉え方をしていないのです。そういう方もいるんだというズレがあるのが、私がやりにくいと思っていることです。ちょっと厳しい見方ですが、保護者の方も、子どもに何を身に付けさせたいのかきちんとわかっていない方が、もしかしたらいるんじゃないのかなと思います。

**名取** 学力というのは、例えば基礎学力として、漢字の能力や本を読む力、計算をする力であるというふうに考えていくと、現在自分が勤務している小学校は、そんなに学力的に大変な感じはしないのです。というのも、私のクラスの保護者の学歴は高く、経済的にも安定した家庭も多く、やはり塾に行く子どもも多いからです。受験する子もかなりいますし、塾に夕食のお弁当を持って行って、10時、11時までやっている子がたくさんいるので、そういう学力という面から言うと、学力テストや県のテストをやっても、結構さらさらと出来てしまうのです。でも、例えば、社会とか理科とかで、調べ方を知らなかったり、「次は何やればいいんですか？」と次々に聞いてくる。基礎的な学力以外に、何かもっと身に付けておく学力、物の調べ方や、誰かに何か聞くときの聞き方というのは、子どもたちにはもっと学んで欲しいというのはあります。

**司会** 今、話しに出ましたけれども、学力向上ということで、授業時間の確保といいながら学力テストもやらなければならない。その結果が出た時に、それに基づいて今度は授業改

善のプログラムを作らなければならない。というようなことも学力向上に向けた一連の中で関わってきますね。稲橋先生は教務主任をされていますが、例えば授業実数のやりくりなどで大変さというものはありませんか？

**稲橋** 授業実数のやりくりは、主たる仕事の一つだと思っています。"特色ある"というところから、授業実数にカウントしない基礎学習の時間、読書の時間、放課後残して学習会の時間だとかという時間の設定が増えてきたということは、間違いなくあります。私の学校の場合は、塾に通っている生徒はどちらかといえば少ない地域で、学校で少しでも力をつけようと先生方も頑張っています。夏休みなどもずいぶん学習会を開いています。小学校でももちろんそうですけれど、中学校でもかなり学力差があるので、5教科の先生方に限らず、学習会などを開きます。私は体育ですけれど、体育の教員なんかも出ます。ですから、実数にカウントできない授業というものはずいぶん増えたかなと思います。また、少人数授業だとかをやっているのでも、先生方の持ち時間数はここ数年でかなり増えましたね。小学校の先生はもちろん全教科なのでずっと授業がありますが、中学校は空き時間があるので、小学校の先生に比べれば持ち時間は少ないのですけれど、そのあたりは、かなり変わってきたかなと思います。

**司会** いわゆる授業以外の場面で、学習活動と称する時間や場を、学校として設けているということですね。小宮山先生はどうですか？  
**小宮山** 校長として着任した学校の例をお話させていただきます。赴任した時、子どもたちがとって伸びやかでいい学校だけれども、学ぶということに意欲を持っていないように感じたのです。学ぶということが、面白いか楽しいか思っていないわけです。どうしてそれを感じたかということ、子どもたちに、「次の時間は何？」と聞くと、即座に答えられないのです。私は、自分が担任をやっている

時に、授業が一番大事だと思っていましたし、授業を本当に工夫していくことが、大切だと思ってきました。教育行政にしばらく入ってから、校長として学校に赴任した時に、先生方に対して、授業の質を本当に大事にして欲しい、一つ一つの授業の質を大事にして欲しい、私はこのことは絶対に譲らないということを校長として宣言したのです。子どもたちに「次の時間は何？」と聞いて、「算数」と答えられるようになり、その次に「次は三角形やるんだ」とか「次はこんなことやるんだ」というところまで答えられるような子どもたちにしたい。うちの学校の子どもをそういう風にしたい、ということを校長として思いました。だからといって、ドリルをたくさんやるということではなくて、先生たちには授業の質を大事にしてくださいということを伝えました。私は校長として、先生たち一人ひとりが、週の計画の中でこんなねらいがあって、こんな風にやりたい、この教材をどんな風に活用するのかなどを相談し合える場所を作りたいと思って、校長として経営してきました。1学期の最後の時に、「本気でやったことは何？」という"本気カード"を校長室の前のポストに入れるということをやりました。本気でやったというのは、やはり、はっきりとわかりやすく何かをやったという図工とか体育とか、音楽で合奏をやりましたとか、そういうものになるのです。算数の少人数指導なども一生懸命にやってきたのだけれども、算数でこんなふうに頑張ったかということにはあまり出てこなかったのです。それで、先生方にいろいろと提案をしました。一つ一つの授業の中で、子どもたちが次の時間こうやりたいんだ、ああいうことやるんだ、ということに答えられるような子どもにしていく、それが本当に力になっていこうと感じたのです。そのことが、目に見えて成果として出てきたという自負がありました。今年の3月に学校を出るときに、子どもたちそれが答

えられるようになっていて、嬉しかったです。東京都の学力調査をやった時に、自分の学校のここが弱いというのは、歴然とわかりましたから。いい機会だったと思います。

**司会** 先ほど子どもたちのことを思って宿題を出しても、保護者の受け止めが違うという話がありましたけれども、まさに親からのクレーム対応で、教育委員会も含めて大変な苦勞をしていると思います。あるいは、給食費の未納の問題。その回収を先生がやっているという話も聞きます。今度は、そういう保護者との対応、地域との対応で大変だということについて、お伺いしたいと思います。例えば、教育委員会のサイドで親からのクレームなど、対応に苦勞されていることについてはどうでしょうか？

**小宮山** 今までの様々な場所での経験でお話します。家庭事情で揉めている内容を、学校に持って来られることがあります。たとえば、お父さんとお母さんが離婚して親権の問題になっていることなど、学校に問題を持って来ているというのがあります。皆さんもご存知でしょうけれども、港区で教育委員会として専任の弁護士を雇っています。こちらが、法律的に強くきちんと説明していかないと、そのことで問題にする保護者が出て来ています。弁護士ときちんと内容を詰めてから、対応した例というのはありました。ですから、教育内容そのもののことではなく、家庭事情のことで校長先生が煩わされるというような場面はありますし、私が校長の立場だった時もそういうことがありました。今は報道が非常にそちらに行っていますけれども、最初の頃は、みんな先生が悪いんだという、学校の攻撃もあったりしました。数は多くはないけれども、理不尽なことを行ってくる保護者は確かにいます。それは通じないでしょう、ということでも、毎日電話を掛けてきて対応していなければならないということもあります。クレマーですね。こちらがそれについて、一生懸

命、こういう趣旨でこうやっています、ということの説明しても、「そんなの嫌だ」ということだけで、毎日のように教育委員会や学校に電話をしてくるとか、そういうことがあるのです。



**稲橋** 生徒指導においては、本当に親も多様です。価値観とよく言われるのだけれども、親の価値観がこうだから、こうなっちゃうのだろうというのは、数限りなくある感じはします。8時、9時に親が帰ってくるのを待っていて、問題のある生徒と話をするという事になって、結局、最終的には学校が悪いからこうになってしまうという流れになることは良くあることです。部活動は、中学校ではかなりポイントが多いので、部活動に関する価値観、考え方の違いというのを、最近ものすごく感じます。特に、小学生の頃から少年野球だとか、クラブだとかをずっとやってきて、親の方がかなりスポーツに対して意識が高いと、どうせ課外授業で全員加入制だから入っているという生徒の親とは、ものすごく差があります。場合によっては、選手の起用でも問題になりますし、「先生、何であそこでバントだったのですか？」なんて、そういうことまで話が出ることもあります。私は朝7時からの1時間の練習と、放課後下校時間までの練習、土日の練習も含めて、全部の子どもたちの様子を見ていて、ここはコイツじゃないな、コイツだな、と思って起用をしているので、聞かれれば説明する気持ちは持っています。私の場合はあまりそういうことには会わないけれども、他の顧問の先生などは、もちろん野球を全然知らなくても野球部の顧問になるということもよくある話ですから、「あの先生は、野球を全然知らないから何とかしてくれないか」というようなことは、他の学校でもよく聞かれます。異動で先生がいなくなって、次の先生は野球のノッ

クもできないのだけどどうしたらいいのか、ということを保護者から言われますが、他の学校の人事のことについてまで、私は口を挟む余地はありませんから。とにかく、部活動におけるそういう親の差というのはものすごく大きく感じます。先生方はなんとなく情熱でやっている部分と、課外活動なんだから、何でそこまでやらなくちゃいけないの？これで金を貰ってるんじゃないよ、という先生ももちろんいます。そういうところを、我々が近隣地区の先生方同士場で話を聞いたり、こういう風に対応した方がいいんじゃないかなど話しをしています。結構熱心に、土日も無く苦勞して練習試合をやったり、「ようやく外野までノックが飛ぶようになりました」とか頑張っている先生がいっぱいいるんですけど、親にいろいろと言われてしまって悩む先生もいます。そういう先生たちから相談を受ければ、「先生がバントって判断したんなら、バントで良いんだよ。」と言うのですが、実際の試合の場面では「先生じゃなかったら勝てたのにね。」なんていうことが平気でポツと耳に入ってくるような感じになったというのは、ここ十何年で変わったかなと思います。私は野球部の顧問だけれども、自分の学校の、例えばサッカー部の生徒が最後の大会をやっているという姿を見るのは、一番の自分の好きなことで、生徒指導の一番だと思っています。野球の試合が重ならない限りは、最後の試合は見届けてあげたいという思いなんです。でも、見ていると、とにかく審判をやっている先生に対して、「何だ、今の先生の審判は！」と、親はガンガン言う。親は良く知っているからです。バンバン言う親が観客席にいて、ちょっと違うな、とは思いますが。そういうのを見ていると子どもたちもストライク、アウトやフェールとか、アウト、セーフに関するクレームをちょっとするような感じもあるので、そういうところはずいぶん違うと感じます。そういう周辺

の環境はずいぶん変わったなと思っています。  
**司会** 稲橋先生は、ご自身で朝から放課後まで面倒を見て、親御さんはそのあたりも納得、了解しているからいいのだと思うのですが、一方では、そういうことが全部評価されていない先生が多いということですね。名取先生はどうですか？

**名取** そうですね。私自身が、自分自身に対する親のすごいクレームに悩んだということは、ありがたいことに無かったです。今、お話を聞いていて、小学校でも、中学校の部活ほどではないですけど、そういうこともあります。例えば、越谷市には陸上大会があり、市内30校開催になりましたので、やはり親もすごく期待する部分が多いのです。そういう中で、ご近所の親のトラブルや人間関係を持ち込んで来られたことがあります。たまたま、あまり上手く行っていない親同士の子どもで、一方の子は選手になれて、もう一方の子は選手から落ちたのです。そうすると選手から落ちた方の親御さんから、「なぜうちの子が選手ではなく、あの子が選手になったのかを、数字の根拠で示して出してくれ」というのが、まず教育委員会に行って、それから学校に回ってきました。数字で表してくれ、うちの子の方が頑張っていたはずだ、ということなんです。また、同じ市内で小学校サッカー大会というのがあります。あくまでも小学校なので、競技性を重視せずに、教育的配慮で親睦を深める目的でやっているものですが、そういう中でも審判に対するクレームがあります。クレームというか、暴言ですよ。『ひっこめ！』とか、『どこ見てるんだ！』とかいうことです。私は審判の免許持っているわけではなく、たまたま学校の中で体育主任という役をやらされている関係で、審判をしなきゃいけないわけです。一度、怒って騒いでいるベンチの方にレッドカードを出したこともあるんです。ひっこみなさい、と言って(笑)。言葉がとても悪いというのを感じます。

それを子どもたちが真似をするんですよね。体育の授業でも、仲間がちょっとミスをする、お前はどーのこーのだ！ひっこめ！ぐらいの感じで言います。それはやはり同じように親が言っているんですね。そういうのをとても感じることがあります。それから、これはクレームではないのですが、以前、林間学校に行った時のことです。お子さんが夜尿症ってありますよね。私が最初に勤めた頃、10年前ぐらいは、申し訳なさそうに親がコソコソと来て、「先生、申し訳ないんですけど、実は、こうでこうで…」という風でした。こちらは仕事ですから、起こすのは当たり前だし、それは責任を持って子どもに嫌な思いさせないようにします。でも、もう当たり前のように「(起こすのは)2時、4時、6時です」とか言われます。じゃあ自分はいつ寝るんだ？という感じですね(笑)。「2時間置きでいいですから」というような感じで、「いいですから」と言われて、「ハイ…」と言うしか無いんですけどね。そういう、少し前までは常識的だったものとのズレというのが、親の中に出てきているのではないかなと思います。

**泉水** 保護者の方は、自分のお子さん为中心ですので、お子さん中心にいろんな価値観があるんだなというがわかりました。1年生の初めての授業参観で、中には、おうちの方"デビュー"の方もいらっしゃるんです。そうすると、今はデジカメではなく、"写メ(携帯電話での写真撮影)"で撮るんですよね。私の学校の授業参観は1日オープンで、4時間が終わって給食だという時に、私ははっきりおうちの方は帰ると思っていたのです。そうしたら、ずっと給食の間もいらしたのです。たまたま、お誕生日の子が一人いたので、給食の時間に、みんなで「おめでとう」と言っていたら、お母さんがツカツカと来て「○○ちゃん！」と自分のお子さんのところで写メで記念撮影しているんですよ。それで、「お母さん、いちおう…」と後で言いに行っ

たんですけど。自分のお子さんしか見えないという感じでした。あと、授業参観の前の掃除の時間にふざけている子どもたちがいたので、掃除中はきちんとしなきゃいけないと、叱ったことがあったのです。一方の女の子は謝ってお掃除を続けたのですが、もう一方の男の子は謝らないで泣きながらウロウロしていたのです。そのうち授業参観の時間になって、お母さんがいらした。そうしたら、お母さんは自分の子どもが泣いているのを見て大激怒なんですよ。「先生、うちの子は連れて帰りますから！」って。でも、「お母さんちょっと待ってください。子どもの話を聞きましたか？」と言っても、「聞いてないの！いいの、聞かなくて！」と。それで、「もう、とにかく泣いているから帰るから！」って言い張るのです。お母さんがそこで一言、何で泣いているのか聞いて下さったら話を通じるのに、おうちの方は子どもにも聞かないのかな、というように思いました。お子さんが大事なのはわかるんですけど、私も意地悪をしているわけではないのですから。いけないことをしたら、いけない。掃除中ふざけたらいけない、ということを教えたかっただけなんですけどね。そういう自分の子どもしか見えないということが凄く感じますね。本当に苦労する時があります。

**司会** 保護者は最近変わってきていると思われませんか？

**小宮山** 今いくつかお話を聞きましたが、せっかく先生方が頑張っているのに、その目的をわかってもらえないというのはすごくあるように思います。私は校長になって思ったのは、これは何の目的のために、このようにこういう準備をしてやっているということ、校長としてたくさん言う必要があるということです。先生方がこんなに頑張って準備しているんです、うちの先生たちは頑張ってサービスしているんですよ、ということは言っていかななくてははいけないという立場だと思いま

したから、学校だよりの一面には、行事のねらいはこうで、このようにやっていて、そのためにこんな準備をしていますと伝えてきました。なかなか担任の先生だと、それは仕事だから、当たり前だから、というのでそんなにずうずうしくいろいろなことを言わないと思います。私たちは職務でそれは当然なんだけれども、頑張っていることはアピールしなければいけないわけです。そうやっていると、保護者の方にお電話した時にも、ありがとうございます、と言われることもあって、とっても嬉しいのですよね。その、「ありがとう」あるいは「ごめんなさい」というのがあんまり無いと、先生達が、がっかりするような場面も確かに生まれます。それは、校長としても伝えていかなければいけないと思うことがありました。たとえばこんなことがあって、驚きました。ある1年生の子どもがなかなか登校してこない。連絡しても連絡がとれない。途中で何かあったのではないかと考えて心配しますよね。担任はクラスを離れるわけにはいきませんから、副校長が迎えに行ったのです。そうしたら、寝坊だったのですが、お母さんが「遅刻なんかあることなんだ！何で迎えに来るんだ！」と、ものすごい勢いで怒ったということがありました。途中で何かあったりすると心配だから、雨の日に迎えに行ったらそれで怒鳴られて、お母さんとしては、自分が悪かったということにはならないのです。でも、そういうこともたまにはあるのだと受け止めながらやっていくのです。「ありがとう」が先ではなくて、「ちょっと恥ずかしい」が先じゃなくて、相手を責めるという方向に持って行ってしまおうという保護者もいます。そういうことに担任がすごく傷つけられる場面というのがあります。このようなことは、管理職として、保護者の方とお話ししていかなければならないことですし、やっていることの説明をもっともっと細かく詳しくしていかなければ、と感じました。今、"説

明責任"とよく言われますけど、もっとかみ砕いて本当にわかってもらえるように話すことも必要です。また、相手の気持ちも、ああそうですか、それは大変でしたね、と保護者のカウンセリングもしていくという場面は、校長としてありますね。怒りを受け止めないといけない。受け止めてから相手に聞いてもらえるような状態になってから、でもこういう場面もあるのではないですか？先生は一人だけ見てるわけではないのですよ、ということ伝えていかなければいけないと思います。稲橋 親の様変わりには数限りなくあって、授業参観の時にうるさいとか。とにかくうるさい。べちゃくちゃ、べちゃくちゃ。親に出て行ってほしいって感じたことがありますよ。教務主任として授業を見に行ったら、「申し訳ないけど、喋らないでください。」って、廊下で喋らないで下さって、授業中なんだけど言ったくらいに、これはもう授業に支障がありますからっていったくらい、喋る。これは一番の特徴ですね。結局、情報交換をしているんでしょうけれども、そこが一番特徴かな。あと、保護者とはちょっとずれてしまうのですけども、地域との連携とか、地域の教育の場とか言われたり、また、開かれた学校とか、地域の行事があると、自治会などが主催して祭りや運動会を開く時に、我々、例えば体育主任とかがこの場にいることが当たり前のように、鍵開けて、ラインの手伝いして、「先生の役割はスターターだから」とか、「放送室から備品持ってきて」とかが、当たり前のようになる。それで、土曜日とか日曜日とか出なければならぬようなパターンが結構あるのですよね。職員室にいる教務主任とか、早く終って鍵閉めて帰りたいな、というシーン結構あります。いろいろな伝統的な何とか祭りとかには、もちろん子どもたちが出るから、そのパトロールに行くとか、「皆さん、連携だから」と言われるのだけど、確かに、連携で親とか地域に助けられているというのも

たくさんあるんだけど、もちろん、子どもたちのためになったり、子どもたちが出ているんだからと言われれば、するのだけれども、この時の手当てはどうだったのかな、と考えてしまうことがあります。この分の休みを何とかしてくれよ、その分だけ自分の野球の試合が出来たかな、と思う時もあります。その辺、当然とされる地域との連携というところがちょっと増えたかなという感じがします。

**司会** 大変さというのが苦しさばかりになってしまったので、今度はプラスの方に行きたいと思います。先生という仕事をやっていく喜びや面白さを簡単に伺いたいと思います。



**泉水** 喜びというと、思い出に残る仕事なのかな、と最近思うようになりました。「去年、先生がこう言ってくれたから、やっと鉄棒できるようになったんだよ」

とか、「去年は意味がわからなかったけど、今になったらわかったよ」とか、子どもの一言一言が、すごく自分の励みになるんだなと思います。本当に苦勞することもあるのですが、この子たちが将来大きくなった時に、ふとした瞬間に思い出してもらえるようなそんな仕事なんだなって、思うようになりました。そういうところが嬉しいところです。

**名取** やはり子どもが何か一つ出来るようになった時、その時の顔を見るのが一番嬉しいのかなって思います。自分では体育の授業を一番工夫しながらやっているつもりなんですけれども、やはり跳べなかった跳び箱が出来た時とか、あの時の喜びの顔、それを見たいんだろうなと思います。大変なことがあるんですけど、鉄棒が出来たりとか、50m走のタイムが0.数秒、本当に0.1秒、たまたま、風が吹いたのかもしれないんですけど、「縮んだんだ！先生、縮んだんだ！」と言ってくる、そういう「出来た」という顔。それがやはり自信になっていくと思うんですね。自

分でも体育を熱心に教えていて、子ども自身が出来るようになったのだから、私はその手伝いをちょこっとしたに過ぎないのですけれども、出来たから、体育は面白い、大嫌いだった体育が面白いと言ってくれる。今まで一番嬉しかったのはそれです。体育の教員になりたいと言って卒業して行って、その通りに道が進んでいるんです。年賀状くれたり連絡を取ったりして、一緒に仕事できるかな、と思ったりします。だんだん教え子とそういう風になれる世代になってきているんですね。それが一番嬉しいです。

**稲橋** 先生たちがおっしゃる通りですね。自分が一番好きな瞬間は、卒業式の朝、合唱で作ったCDなどを車の中で聴きながら登校する瞬間ですね。一晩中準備に追われて、眠たい目で卒業式に出たこともたくさんありますが、その朝に、合唱コンクールのクラスの歌声や、1年生、2年生、3年生の時の校歌などを聴きながら、学校へ向かうんです。それと、先ほど話しましたが、卓球部とか野球部、サッカー部、バスケット部とか、最後の大会に臨んでいるやつを、ちょっと野球の審判とかを抜けながら、あっちこっち行って最後を見届ける瞬間というのはいいですね。県や全国大会まで行って、見届けられない場合もあるのだけれども、そういう最後の瞬間で、ちょっとヒゲ面した3年が泣いていたりね。そういう瞬間です。私は教育相談や進路指導の2者面談などで、結構真剣に進路の話などしている時も好きですね。私に対してのイメージは、「厳しい」とか「こわい」という印象が生徒の中にはあるんだけど、そうではなくて、じっくり話をして、「そうか、お前はそれをやりたいのか」なんて話をして、「この高校もあるぞ」という話なんかしてね。そして、「先生、受かったよ」というその瞬間は、やっぱり好きですね。ちょっとジーンとくる場面、卒業式とかには、あまり泣かない方ですけど、それなりに思いがあって、声

が詰まっちゃったりします。そういう場面は好きですね。時には成人式に呼ばれるんですよ。みんな寄ってきますね。同窓会だとかで、いろいろな職場でいろいろな形で働いている教え子に会って、メールがたくさん来たり。教え子たちと何人かで会って話をしたりという瞬間は、何物にも代え難い感じですよ。

**小宮山** 自分が担任をやっていた時、何しろ私は子どもが好きで、子どもって面白いこと言うな、楽しいなという気持ちでいっぱいでした。大変なことがいろいろあっても、子どもは本当に可愛いな、というのは校長になっても変わらずにありました。子どもは、本当にすごいなと思うのです。今、狛江の教育委員会でいろいろな学校に行き、体育祭だとか運動会だとか、授業を見たりする機会があるのですが、真剣にやっている姿を見て、「すごいな」「立派だな」と感じ、それこそ普段の授業の中でそういう子ども達の姿を見ていてグッと感激する場面があります。また、教育行政の立場や管理職の立場で、若い先生方の育ちに喜びを感じることがあります。昨年、私の学校では、17学級のうち、初任者が4人入りました。その先生たちがそれぞれに悩みながら真剣にいいクラスを作ってくれてのを見ながら、“いい先生になる”というのを見ていくのも、この頃はとても楽しみです。練馬区の教育委員会にいたときには、初任者が50数人ほどいて、初任者研修で1年間ずっと関わってきました。それぞれの初任者がいろいろ悩みながら成長するのです。その先生たちが、今も、ここでこういう風にやっています、と連絡をくれます。今度は、子どもの育ちと同時に、担任の先生たちがそれぞれに育って行ってくれているのを見ているのも嬉しいことですね。私に、教育行政に入るよう薦めてくれた校長先生は、「自分が一人でやっていることをもっともっと大きく広げていきなさい」と言ってくださったのです。そのことがやっと今、少しずつ実

感としてわかってきました。以前はずっと実践者として、担任でやりたいと、「(管理職)試験は受けません」と断り続けていた時があったのですが、今初任者の人たちがそれぞれの力をつけていく所を見ると、やはり教育は育てる人と実践者とが支えているのだと感じます。



**司会** どうしても、子どもの変容とか成長というところに目が向くけれども、同じ教師が育っていく姿に喜びを感じる。それはやっぱり小宮山先生ならではの部分でもあるのだと思います。さて、今日は、皆さん、文教大学のご卒業ということで来て頂いているわけですが、今、まさにこれから夢の実現に向けて頑張ろうとしている後輩が大勢いるわけです。そういった後輩に向けてメッセージ、期待することを一言ずつ話していただければと思います。

**小宮山** これからの国をつくる、と言ったら大きさですけども、本当にこの教育というのは、数値的に成果がすぐに出てくるものではないですが、ものすごく大事な仕事だと思います。今いろいろな課題があり、国を挙げて教育のことを考えている時期です。本当に一人ひとりの先生の力というのが求められています。子どもが大好きで、子どものために、と頑張ってくれる人がたくさん出て、本当に情熱持ってやって欲しいと思っています。すごくやりがいのある仕事です。私も文教大学で教わったことをやってきて、今まで来ることができたと思っています。是非ぜひ頑張りたいと期待しています。私も役に立つことがあったら、いつでも飛んで行ってお話ししますよ。

**稲橋** 息子が現在、文教大学でお世話になっているので、食卓でそういう話をするのはちょっと食事が上手くなるので、あんまりしないことが多いです(笑)。どうしてもちょっと自分が熱くなった時、うちの嫁さんもここ

の出身ですので、そういう話をしたりすることがあるんですけどね。やっぱり熱い気持ちを持って欲しい。何かテクニックとかいろいろ科学的な知識だとかことも、もちろん必要なんですけども、やっぱり熱い気持ちがないと、この職業についた時にはダメだなという事は、息子にも一応伝えているつもりなんです。もちろん私も教員になった時に、教員免許持っている者は世の中に大勢いる。この中でお前もこの熱い気持ちを持って、どういう風に研修していくか、また、時代の流れをよく読んでいくかということが大事だから研修受けて勉強しろ、ということもよく言われました。研修も勉強ももちろん必要だけれども、息子には、熱い気持ちが大勢だと言っています。点数稼ぎでなく、この状況を何とかしたい、本当にこの生徒たちをよくしたいとか、この学校をいい平和な学校にしたいとか、というようなことを本当に思う人間じゃないと、絶対やっていけないと思うのです。どの仕事もそうだと思うんですけどね。そういう熱い気持ちをしっかり持って、取り組んでくれることを期待します。多分、私が知っている範囲では、文教大学の卒業生は、かなりその熱い気持ちを持って、千葉県では良くやっているなと思います。その熱い気持ちをしっかり息子にも持ってもらってね、無ければやめて欲しい（笑）。あったら頑張って支援したいなと思っています。

**名取** まだ、自分がそうできているかよくわからないので、大きなことを言える立場ではないのですが、本当に毎日が楽しいので、"なればわかる"いい仕事だと思うので頑張って先生になって欲しいなと思います。どんな仕事でも多分きっとやりがいや難しい事もあるだろうし、先生だから特別どういうということでもないですが、でも、自分の力が子どもや学校を変えたり、組織を変えたりという、自分の影響力が出やすいと思います。会社組織より影響力が出やすいのかなと思います。

その分、責任も重いでしょうけれども、それがやりがいになるし、やりがいになったことが、人として返ってきてくれるので、やはり先生になりたいと思ったら、初心貫徹で、とりあえず、なってみて欲しいと思います。きつとなってみれば、自分でいろいろと工夫していくだろうし、面白味も見つかるだろうし、なってみればわかるよ、という感じですね。

**泉水** 今、先生方がおっしゃったように、本当に先生になってやってみてしかわからないという楽しみというのを感じます。私は、仕事って楽しいんだというのをこの歳になってやっと思ったんです。今まで先生にならなっちゃ、という変な使命感があったんです。私ぐらいの歳だと、同級生の子たちと飲んだ時に、仕事の愚痴を聞くよりも、私ってこれがすごく楽しくてね、こういうところにやりがいがあるんだよって語れるっていうのが、すごく最近いいなと思うようになりました。あとは、本当に文教生の皆さんに感謝の気持ちで一杯なのです。文教生との接点というと、今では教育実習しかないのですが、学校で他の先生方が、文教の学生さんはよくやってくれる、よく働いてくれる、何よりも子どもとよく遊んでくれる、と言うんですね。休み時間も、放課後に学校に遊びに来る子いつも暗くなるまで遊んでくれていて、そういう一緒に遊べる学生ってすごくいいなと思っています。私自身が初心を思い出します。ですから感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

**司会** 司会の不手際で、先生方の思いを十分にお話いただくことができなかつたかと思いますが、本日はお忙しいなかお集まりいただき、貴重なお話を伺うことができました。今日はどうもありがとうございました。

**一同** ありがとうございました。